

開催日: 4月14~15日 開催場所: スピードパーク恋の浦 格式: 国内 主催: RASCAL [クラブ登録No.加盟40010]、FMSC [クラブ登録No.加盟40042]、RC-OITA [クラブ登録No.加盟44005]

フォト/西野キヨシ、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

上野倫広スィフト、ゲンのいい恋の浦で今季初優勝



逆転で今季初優勝。恋の浦は2年振りの優勝となったPN1上野倫広選手。

全日本ダートトライアル選手権第2戦は開幕戦丸和から約1ヵ月のインターバルを経た4月14~15日、福岡県のスピードパーク恋の浦で開催された。

公開練習が行われた土曜に本降りの雨の予報が出たこともあって、当初2本、予定されていた公開練習は急遽、1本に短縮。土曜の雨は翌決勝日の朝まで残り、マッディに近いコンディションの中、1号車はスタートしたが、午前中に

青空が出る快晴に好転したため、路面も急速に回復。結果、全クラス、ヒート2のタイムで勝負が決する形となった。

ヒート1から各車20秒以上もタイムアップと路面が大きく変わったPN1クラスは、各選手、2本めのタイヤ選択に頭を悩ます展開となった。「ドライも考えたけど、去年、皆がドライで行った中、ケンシロー君がウェットで勝ったでしょ。それが頭をよぎった」という最終走者

の上野倫広選手が悩んだ末のウェットタイヤで2年ぶりに恋の浦を制覇した。「イメージ通りに走れました。結果的には74Rにちょうどいい路面だったと思います」

今年、台風の日となりそうな工藤清美選手のフィットは上野選手から2.1秒差の3位。「クルマの感触は良かったけど、下の方で1速を使いすぎたかな。上りもちょっとフィットにはつらかった。でもクルマはいい。ドライバーが追いついてないだけ(笑)。チャンスはあると思います」と打倒スィフトに意欲を見せた。

開幕戦で垣間見せたスピードが大きな注目を集めたZC33Sスィフトが2回目の登場となったPN2クラス。ヒート1はそのZC33Sを駆る宝田ケンシロー選手がヴィッツの川島秀樹選手を1.6秒差の2番手に従えてトップで折り返す。宝田選手はヒート2、終盤でバーストを喫するも20秒近くもヒート1のタイムを削り取って首位を奪い返した。

しかし続く細木智矢選手が宝田選手の暫定ベストを3.7秒も縮める1分41秒406をマーク。この日、2WD総合でも4番手に入るスーパーベストをマークした細木選手がZC33Sスィフトに全日本ダート初初の1勝をもたらした。「ポテ





8.12. 東北のランエボマイスター伊藤久選手が九州恋の浦で全日本初優勝をもぎ取った。9.10.N1クラスは北陸勢が健闘。山口順平選手が3位(9.)。森大士選手が2位(10.)。11.「タイムを稼ぎたい所で稼げた。抑え過ぎたのがミス」。ぶっちぎりのタイムで開幕2連勝を飾ったN1岡翔太選手。13.14.N2は表彰台の両脇を地元九州勢が回めた。開幕戦優勝の岸山信之選手は3位(13.)。浜田隆行選手が2位(14.)。



15.「抑えすぎたと思ったらけど結果的には丁度良かった」。SA1は恋の浦2度めの小山健一選手が優勝。16.SA1ルーキー浦上真選手が3位。17.地元のSA1田口和久選手が大健闘の2位。18.19.SA2はマイケル・ティー選手(18.)が鎌田卓麻選手(19.)を0.037秒抑えて2位入賞。20.21.「足回りもキチッとやってきたのですべてが良かった。全然違うクルマになったよ」。ここ数年スロースターターだったSA2北村和浩選手が2戦目で今季初V。



22.SC2は今季初参戦の梶岡悟選手がまず1勝。連覇に向けて好スタート。23.SC2上村智也選手は2戦連続の表彰台。24.SC1南義則選手は地元の一戦で3位入賞。25.SC1王者山崎迅人選手は僅差の2位。26.Dクラス3位入賞は河内渉選手。27.SC1は86から乗り換えた奥村直樹選手がセリカ2戦目でクラス初優勝。28.Dクラスは谷田川敏幸選手が「貫禄のオーバーオール」V。29.SC2山口勝彦選手は連勝ならず。2位。30.新車投入の亀山晃選手がDで2位入賞。残すは優勝だけ!?

ンシャルが高いのは丸和の時から分かっていたので、いかにそれを引き出すかでこの1ヵ月探ってきました。今日はウェットタイヤでの走りをしっかり組み立てられたこと、見直して来た足のセットがハマった感じですが、まだ分からない部分があるのでしっかりこれから煮詰めたい(細木選手)。

2017王者、川島選手は4.7秒差をつけられての3位。「細木君のタイムを聞いたら、珍しくカーッとなっちゃって2回ひっくり返りそうになった(笑)。でも彼のトップタイムは、全然見えないタイムじゃない。まだまだ勝負できるよ」とリベンジを誓った。

一方、N2クラスは東北秋田から遠征の伊藤久

選手が九州の地で初優勝。「去年、下りでバーストしたんで不安はあったんだけど、変に引っ掛けるからバーストするんだと、今年は頂上からずっとラインは外さずにドリフトで踏み切って滑らせて降りてきたのが結果的には良かったんでしょ」と伊藤選手。ヒート1首位で開幕2連勝を狙った地元の岸山信之選手は「安全策を採ってウェットタイヤで行ったけどドライでも良かったかな」と0.144秒差の3位。同じく地元の浜田隆行選手が2台の間に割って入る2位を獲得している。

SC1クラスは開幕戦ウィナーの佐藤秀昭選手が不出場。昨年の王者、山崎迅人選手が「鬼のいぬ間に」今季初勝利に臨んだが、今年から

ZZT23セリカに乗り込んだ奥村直樹選手が立ちはだかった。両者の戦いはヒート1は奥村セリカが山崎ミラージュを0.17秒しのいでベスト。ヒート2ではその差は0.061秒まで縮まったが、奥村選手が辛うじて逃げ切った。

「ギャップがあると聞いてたんで慎重に走りましたが、チームが凄く乗りやすい足を作ってくれたので今回のような路面でも全然踏めましたね。元々、ドライ寄りでは速い足だったんだけど全域で踏めるようになった。ただどうしてもリアがピーキーなので、それをどうするかが今後の課題です」と奥村選手。

クラス移籍2戦めでの初勝利に手応えを掴んだ様子だった。